

何があってもベストを尽くす

——第35回 日本語スピーチ発表会：スピーチ概要（発表順）

 タイ

収穫期
カノクポン・ウィラッチパンさん

私が7歳の時、両親が離婚。母の実家で暮らすことになりました。バンコクへ出稼ぎに行った母を助けたいと、私はおじとおばのみかん畑で働くことにしました。働く子どもは私だけでした。



中学校は家から離れていたため、学生寮に住むためにウッドボールというスポーツのクラブに入りました。学生寮にただで住めて、試合に出るとお金までもらえるのです。

高校を卒業する時、母が病気で倒れ実家に戻ってきました。アルバイトをしながら大学へ行くことに。2年生の時、日本語の科目が不合格になり、とても悔しかったけど、もう1度頑張ろうと決意。すると、日本の大学のサマースクールに奨学金で行けることになりました。嬉しくて、母に電話しました。

初めて乗る飛行機から見えた東京の街、わくわくしました。サマースクールでは、先生が毎日みんなの前で日本語を話す練習をさせてくれたおかげで、話す勇気が出て話すことが好きになりました。

「苦労は人を殺さない。生きていく方法を教えてくれる」と母はいつも言います。私は子どものころから働かなければならなかった「苦労」に感謝しています。なぜなら苦労はチャンスをつくってくれるからです。

私たちの人生はみかんのようなものです。み

かんをつくるためには、いろいろな季節を乗り越えなければなりません。そして、どんなみかんになるかを決めるのは、自分です。

私は、おいしいみかんをつくりたいです。■

えみりん
馬越恵美子先生のここに注目！

「収穫期」、みかんの話とても良かったです。お母さんの姿に心を打たれました。「苦労は人を殺さない。生きていく方法を教えてくれる」「苦労に感謝しています」と。だからそんなに素敵な笑顔なのですね。

 インドネシア

AIを使って夢にたどり着く
ナディア・ヌルハミダー・ヒダヤトさん

今、私たちは気が付かないうちにAIと大きく関わる生活を送っています。便利なバーチャルアシスタント機能はAIです。ポケモンGOのようなゲームでもAIが使われています。それだけではありません。最近、人間の代わりに接客をするロボットや自動運転車など、AI技術が人間の代わりに仕事をすることもできます。



でも、こうしたAIの進化で、私たちの仕事が奪われるのではないかと少し不安です。アメリカの研究所の調査によると、10年後には世界にある仕事の15%がAIに奪われてしまうそうです。これからはSTEM(科学・技術・工学・数学)教育が重要になると。残念なことに、私が専攻する文学は入っていません。でも重要なのはSTEM教育だけでしょうか。

どんな言語にも翻訳してくれるソフトや拡張現実など、AIは昔の夢物語を現実にしてくれました。では夢を見たのは誰でしょう。AIではなく人間です。私たち人間は夢見る力をもっているのです。

AIがどんなに進化したとしても、人を育てる力、何かアイデアを生み出す力をもっているのは人間だけです。STEM教育の前に必要なのは、人間にしかできないことを大切にすることだと思います。

さあ、一緒に夢を見ましょう。皆さんが夢見るものは何ですか？ いつでも空を飛べるタケコプターですか？ 孤独なあなたを励ましてくれる優しいロボットですか？ それがかとう未来は、すぐそこまで来ています。 ■

馬越恵美子先生のここに注目！

話し方がとても上手です。画面にしっかりと向き合って、すごく効果的。AIは時代の最先端。スピーチ発表会の講評も将来は私に代わって「えみりんロボット」がするようになるかもしれません。でも、「夢を見ることは人間にしかできない」ところで、私の夢は宇宙旅行なのです。

カンボジア

外側を見ないで ドウ・ピセイさん

夜に開くカラオケ店をもって
いる母を、悪く言う人がいます。

母の右目はポルポト時代に
弾丸が入ったため見えません。
目が痛くて外では働けないの
で、うちの仕事だけをやっていました。でも、
私が9歳の時、父と別れた母は、2人の子ども
を育てるため、カラオケの店を開きました。

カラオケ店のお客さんは酔っばらって、よく



けんかします。とても怖かったです。母を助け
たくても、私は何も手伝えずただ泣くだけ。で
も母はいくら大変でも、いくら悪く言われても、
「子どものためだから大丈夫」と言いました。

夜忙しくて寝る時間もない母ですが、私が起
きる前に朝ご飯を作っておいてくれました。頑
張っている母のために私は一生懸命勉強しよう
と決意。高校の卒業試験で好成绩を収めること
ができ、首相からいろいろなプレゼントまでい
ただきました。みんなにびっくりされたり、ほ
められたり、母は笑ってとても幸せそうでした。
そんな母のことを聞いて、皆さんはどう思いま
すか？ 悪い人だと思えますか？

人は外側だけ見ても本当のことは分かりませ
ん。でも、私も他の人の外側だけ見て決めつけ
てしまったことがあるし、私の家族も外側だけ
見られ悪口を言われました。だから私は人を見
ただけで良い人かどうか、すぐ判断しないよ
うにしています。人はみんな違うのです。だか
ら、人の内側を見た方がいいです。その人と話
してみたら、外側と違うかもしれません。 ■

馬越恵美子先生のここに注目！

働くお母さんを通して、外側だけで人を判断し
てはいけないと。私たちも無意識のうちに偏見
をもつことってありますよね。大切な気付きを
与えてくれるスピーチです。ダイバーシティ&
インクルージョン(多様性と包摂)をすごく感じ
ました。

フィリピン

試み

ロビー・ジェン・タニヨさん

「MOMO 自殺チャレンジ」という携帯のオン
ラインゲームが世界中で流行っているのをご存
知ですか？ WhatsAppなどのアカウントに携



帯の番号を入力しメッセージを送ると、MOMOというキャラクターが「地下鉄に降りろ」とか、「有毒物質を飲め」などの命令を返信してくるそうです。従わないと「悪いことが起る」とか「お前を殺す」とか。本当に怖いと思いませんか？

SNSを利用するのに年齢制限はありません。子どもは正しい使い方や注意などを与えられないまま使っています。そのような子どもが、こんなゲームで命を失うようなことがあってはならないと思います。

私たちは命を何より大切にしなければいけません。落ち込んで「生きている意味がない」と考えてしまう人がいます。私も落ち込んだ時がありましたが、ゆっくり立ち直って、生活にやさしいことを少しずつ見つけ、悲しみを幸せに変えることができました。

ある女性がこのように言っていました。「人生は長いから、苦しいのは一時期だけだということに気付いてほしい。苦しいことは死ぬまで続かない。人との出会いのような転機が訪れて、自分の人生を取り戻せる時が絶対に来る！」。

この言葉を聞いて、私は感動しました。世界には「喜び」「悲しみ」また「つらい時」もあるけど、周りの誰かと話をして、支えてもらって頑張れば、だんだん明るいものが見えてくるに違いありません。

馬越恵美子先生のここに注目！

深刻な話題なのに、とても明るく語ってくれました。人間って本当は集まることが好きなのです。コロナはそんな「密」になる楽しみを奪いました。スピーチに「だんだん明るいものが見えてくるに違いありません」とあるように、みんなでコロナに打ち勝っていきましょう！



私の人生を変えた初めての経験について話します。中学生の時です。学校で歌のコンテストがあると知って、歌うのが好きな私は、コンテストに参加したいと思いました。でも、私は恥ずかしがりやで勇気がない人間です。何度も考え、コンテストに参加することを決めました。



初めてのステージに上がる前、怖くて足が震えるくらい緊張しました。どうすればいいのかわからなくて頭が真っ白に。トイレに行って自分を落ち着かせました。その時、頭に浮かんだのは「自分は何も間違ったことをやっていないのに、どうして怖いの？」「今日の参加者はみんな初めてのステージのはず。最初からうまくできる人なんていない」「これはいいチャンスだ」。するとステージの上では最後までうまく歌うことができました。思いがけないことに、コンテストでは3位になり、とてもびっくりしました。この経験から、勇気があれば何でも打ち勝てることを学びました。恥ずかしがらず、自信をもてるようになりました。

人生は1回しかありません。もし、やりたいことがあったら、チャンスを捨てないですぐにやってみてください。全ては自分で学んだことと経験から始まるからです。だから、機会があれば、まずベストで頑張らなければなりません。「自分はできない」と言ったら、やりたいことができないし、良い経験にもならないと思います。皆さんも勇気をもって恥ずかしさに負けないでください。

馬越恵美子先生のここに注目！

「人生は1回しかありません」「チャンスを捨てないで」。勇気が大事だということを教えてくださいました。発表者の皆さんは全員、今日の発表会をチャンスと捉え、チャレンジしようと勇気を出したのですね。



フィリピン

新型コロナウイルスとの戦い
バブ・パンガンさん

私は腎臓内科専門の医者です。
2020年3月、まさかパンデミックが起こるとは想像もできなかったです。



4月に防護服を初めて着ました。食べることも、飲むことも、トイレにも行けない8時間、閉所恐怖症になりそう。仕事を終えて夜、病棟から出た瞬間はすごくほっとしました。「やっとトイレに行ける」「晚ご飯何にしようか」「早く帰りたいな」「あ、その前にシャワーだ」。自分へのご褒美はアイスクリームです。

5月、一緒に働いていた2人の看護師さんが感染したため、私もPCR検査を受けることに。症状はなかったのに、検査結果は陽性でした。入院して自分が患者の立場になってみて、患者さんの気持ちがよく分かりました。孤独で、家族や友達にどんなに会いたかったことか。感染した自分を責めたこともありました。でも自分が患者になったおかげで、以前より患者さんとうまく向き合えることができるようになった気がします。

2021年の年が開けても、コロナは続いています。皆さん、疲れ果てているだろうと思います。正直、まだ怖いです。油断すると感染がま

た広がってしまうので、注意しないとはいけません。人混みを避けて、外に出る時はマスクをして、外から帰ってきたら手を洗って、これは周りの大切な人を守ることに繋がります。

私たちは新型コロナウイルスとうまく付き合っていないといけません。みんなで頑張りましょう。

馬越恵美子先生のここに注目！

医療の最前線で戦うヒーローです。「自分がコロナに感染してしまった」「まさか!」。生々しい体験でした。コロナで私たちも心に防護服を着ています。これからは、防護服を取り去って心を開いていかなければならないですね。

発表会は新たなステージに

講評 桜美林大学 教授 馬越恵美子先生

2年ぶりの開催で、発表者の皆さんの声が聞けてとても嬉しいです。

話し方も自然で、私からアドバイスすることなど何もありません。特に皆さん一つひとつの言葉が丁寧ではっきりとしていて、オンラインにぴったり合った話し方でした。私たちも見習わないといけないと思いました。

皆さんのスピーチに共通して強く感じ取れたのは、「苦勞を乗り越えてたくましく成長する姿」。今回の日本語スピーチ発表会も、苦勞を皆で分かち合って数々の困難を乗り越えてきたからこそ、こうして大成功を収めることができたのだと思います。新たなステージに入ったと言えるのではないのでしょうか。

これからますます楽しみです。



(まごし・えみこ)

同時通訳、東京純心女子大学教授、NHKラジオ英会話講座講師などを経て現職。博士(学術)。『ダイバーシティマネジメントと異文化経営』など著書多数。講演や執筆のほか、英語落語、ジャズボーカルなど幅広く活動。異文化経営学会会長。